

百日咳の流行状況が増加傾向にあると、県から注意喚起が出ています。

12月第1週の時点で、15歳未満で増加しており、南部・中部の報告が増えています。

※百日咳は、DPT（混合ワクチン）予防接種に含まれています。母子手帳で、接種状況も確認しておきましょう。

## 第二種の伝染病

# 百日ぜき

**潜伏期間**…1～2週間

**感染経路**…せきやくしゃみで菌が広がる飛沫感染で、予防接種を受けていない子どもが感染します。

出席停止：医師の指示のもと、特有の咳が消失するまで、または、5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで

## 主な症状

百日ぜきにかかると、最初は普通のかぜと変わらず、くしゃみ、せき、鼻水が出ます。1～2週間が過ぎるとせきが激しくなり、せき込んだ後ヒューと笛を吹くような音を立てて息を吸い込み、顔が赤くなります。3～4週間ごろになると少しずつ軽くなります。熱は出ません。

園で、せきが長引いたり、息を吸い込むようなせきをする子どもが見られたときは、早めに医師の診断を受けましょう。

## 百日ぜきの注意

### 家庭では



○予防接種を受けているか確認しましょう。



○せき込みがひどく、息が止まりそうになる、せき込み何度も吐く、熱が出た、このようなときは、もう一度医師の診察を受けましょう。



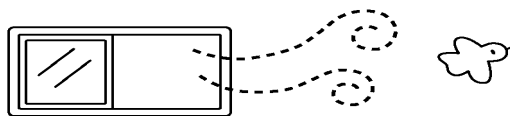
○せき込んで吐くため、食事の量は少なく回数を多くし、消化のよいものを与えましょう。



○水分をたくさんとるようにしましょう。



○部屋の湿度を保ち、換気を忘れずに。



## 赤ちゃんには近づかない

百日ぜき

ゴメメの  
ゴメンネ



小さい子どもほど症状がひどくなります。特に生後6か月以下の赤ちゃんでは、せきのために息ができなくなってしまうことがあり、入院が必要となる場合もあるようです。

## 治りにくい百日ぜき

百日ぜきというだけに、回復までかなり時間のかかる病気です。夜にせきが多い、コンコンと乾いたせきが数10回連続して出る、処方されたせき止めを飲んでも止まらない、このような症状があればすぐ病院に行き、医師の診断を受けましょう。

